

1. 検討の基本的な方向性

「我が国の学術研究の振興と科研費改革について」（平成26年8月学術分科会）では、我が国が世界の先頭を競っている分野の持続的発展、優秀な研究者が、必然的に発展する学際的・分野融合的領域に取り組む環境の醸成、これから世界の先頭を走ることになる分野の苗床となるような学術研究の質の高い多様性の確保と次代を担う若手研究者の確保・育成を目指すこととしている。

（「科研費改革の基本的な方向性」における主な検討項目）

- ① 科研費の基本的な構造改革
- ② 自らのアイデアに基づく継続的な学術研究推進の観点からの見直し
- ③ 国際ネットワーク形成の観点からの見直しと体制整備
- ④ 「学術研究助成基金」の充実
- ⑤ 研究成果の一層の可視化と活用

2. 検討の進め方

科研費制度はこれまで、質の高い審査を実施しつつ制度改善項目の試行を重ね、改革を着実に進めることにより、信頼度の高い制度構築に努めてきたところであり、改革項目の検討に当たっては、これまでと同様に、具体的な審査方式や審査体制の見直しの観点に立脚して、実効性と発展性の両面から工程を検討することが重要である。

このため、具体的な改革工程の検討に当たっては、日本学術振興会学術システム研究センターに対して、専門的な観点からの検討を依頼し（別紙参照）、その検討を踏まえ、研究費部会において、改革全体の工程及び来年度に向けた実施計画を審議・策定する。

3. 改革実施方針策定までの当面のスケジュール

- | | |
|-------|---------------------------|
| 4月～6月 | 日本学術振興会学術システム研究センターにおける検討 |
| 7月～8月 | 検討を踏まえた実施方針の審議・策定 |

科研費改革の工程表の策定に向けて

【別紙】

- 検討項目における各取組については、原則として第5期科学技術基本計画期間中での実施を目指す。
- 科研費を巡る他の制度改革等の動向も踏まえつつ、随時見直しを図る。

【検討項目イメージ】

主な検討項目	検討課題例
<u>分科細目表の見直し</u>	○創造性を引き出す審査区分の導入(応募分野の大括り化等) 等
<u>審査方式の見直し</u>	○応募数(研究種目の趣旨、規模等)に最適な、丁寧な審査の導入 ○審査コストを踏まえた、公正かつ簡素な審査の導入 等
<u>応募・審査プロセスの見直し</u>	○重複応募制限の在り方 ○応募件数の増加への対応(審査コストの増大を抑える方策の導入) ○国際化への対応 ○審査委員の育成・確保の方策 等
<u>その他の見直し</u>	○創造性を引き出し、研究の継続発展に最適な研究種目の再構成 ○科研費事業の可視化の推進 等

【検討にあたっての留意点等】

- 学術分科会での中間まとめ(平成26年8月)における「科研費改革の基本的な方向性」や各検討項目の関連性に留意して検討を進める。
- 毎年度の審査を着実に実施しつつ、科研費改革を進めていく必要があるため、改革の工程については、日本学術振興会(学術システム研究センター)において検討を進める。